

アクション&レガシープラン 2016 中間報告

～東京2020大会に参画しよう。そして、未来につなげよう～



2016年2月

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

アクション&レガシープラン策定にあたって

東京2020大会開催にあたっていただいたご意見

- 「2020年に向けて、自らも何かできないかと思っているが、何をしたらいいのかわからない」
- 「東京都、国、自治体、協賛企業など、様々な団体がオリンピックやパラリンピックとの関連で、いろいろなことを検討、実施しているが、全体としてどう動いていくのかわかりにくい」
- 「自分たちで勝手に何か行動していいのかわからないし、行動するにしても、東京2020大会と何らかの形で結びつけていきたい」 等

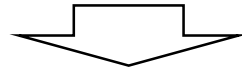


2020年に向けて「誰が何をを行うのか」、あるいは「私たちが行うべきことは何か」などについて、全体像や方向性、具体的なアクション例などをまとめる必要があるのではないか。

1. 基本的な考え方（アクション&レガシープラン）

▽ 『オリンピック・パラリンピックは参加することに意義がある』とあるように、できるだけ多くの方々、自治体や団体に参画していただく【アクション】。

▽ 大会ビジョンで「スポーツには世界と未来を変える力がある」を掲げ、その力で、東京2020大会をきっかけにポジティブな影響を残し、聖火リレーのように、次代を担う若者や子供たちに継承していく【レガシー】。



▽ 『アクション&レガシープラン』は、一人でも多くの方が参画【アクション】し、大会をきっかけにした成果を未来に継承する【レガシー】ためのプラン。

Tokyo 2020 Vision

スポーツには、世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は

「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」

「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」

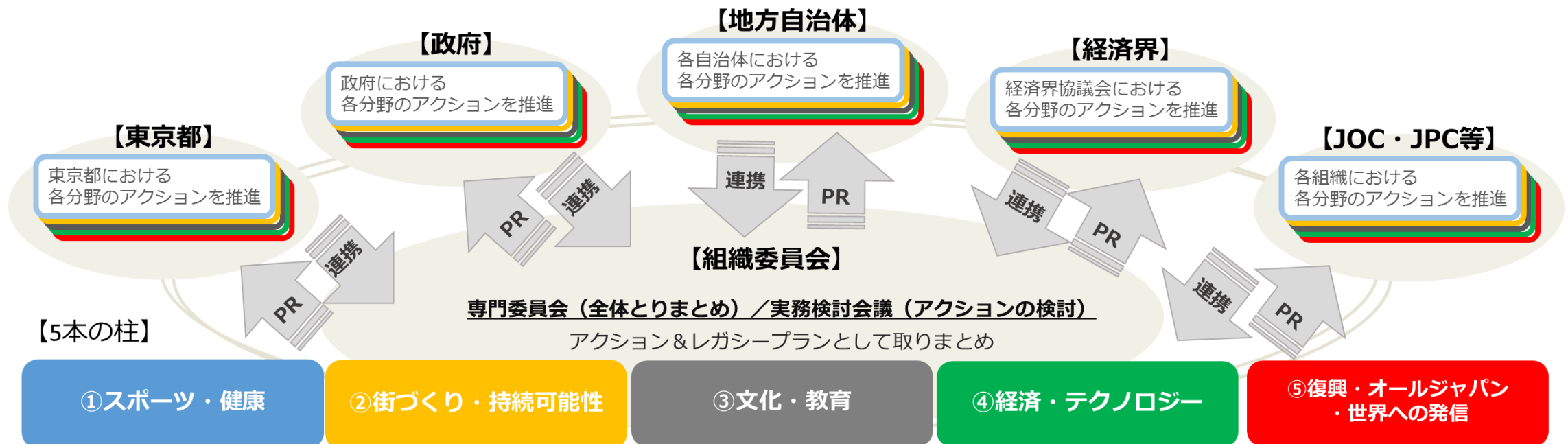
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を

3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

2. オールジャパンでの取組

▽ 東京都、政府、経済界、JOC・JPC等の関係団体と連携を図り、オールジャパン体制で検討し、今回、中間報告として取りまとめ。

▽ ①「スポーツ・健康」②「街づくり・持続可能性」③「文化・教育」④「経済・テクノロジー」⑤「復興・オールジャパン・世界への発信」の5本の柱で検討。⇒今後、「アクション&レガシープラン2016」を策定し、リオ大会前に公表予定。



3. アクション&レガシープラン2016の策定に向けた重要な視点

(1) 『参画』

- ▶ 多くの企画・イベントを全国で実施し、できるだけ多くの方々、自治体や団体に主体的に参画していただき、盛上げを図る。
- ▶ 企画・イベント等の「認証」の仕組みをリオ大会前までに構築。

(2) 『パラリンピック』

- ▶ 高齢化先進国に向けた課題解決や、共生社会の実現・確立に向けたきっかけとなりうる大会。
- ▶ 東京は世界で初めて、同一都市で2回目のパラリンピック大会が開催される都市。

(3) 『2018～2022年の間の大規模大会との連携』

- ▶ オリンピック・パラリンピック大会（2018年 平昌（韓国）・2020年 東京（日本）・2022年 北京（中国））、日本でのラグビーワールドカップ大会（2019年）、ワールドマスターズゲームズ（2021年）といった世界的な大規模スポーツ大会との連携を図る。

4. 今後のスケジュール



①スポーツ・健康

<アスリート委員会、高橋尚子委員長>

基本的な考え方

- オリンピック・パラリンピックは様々な分野への波及力を持ち、「スポーツ・健康」は5つの柱各分野との結びつきが最も高い
- 東京2020大会は、日本と世界にポジティブなレガシーを創出する大きな転換点となることを期待

残すべきレガシー

誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会	アスリートが活躍する社会	パラリンピックを契機とした共生社会
スポーツ参画人口の拡大とスポーツ関連産業の発展	競技力の向上と競技環境の整備	障がい者スポーツのファン拡大
スポーツ（運動）の力による健康づくりの推進	ロールモデルアスリートの育成と活躍の推進	障がい者スポーツの環境整備
スポーツを通じた国際交流・協力	スポーツ・インテグリティの保護	共生社会に向けたアプローチ

「共通の幟（のぼり）※」によるオールジャパンでのアクションの推進 （※東京2020大会とコンセプトを共有する、関連性のある様々な取組をつなぐ共通のキャッチコピー等）

誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会 の実現に向けたアクション例	アスリートが活躍する社会 の実現に向けたアクション例	パラリンピックを契機とした共生社会 の実現に向けたアクション例
<ul style="list-style-type: none"> ■ 「一地域一スポーツ運動（仮称）」等によるスポーツ実施率向上に向けた取組の推進 ■ スポーツウェルネスに関する情報を効果的に届けてスポーツ実施を促す「インフルエンサー」を全国で組織化 ■ アスリートや市民が参画する大会エンゲージメントと地域のスポーツ振興等を相乗効果が上がるように実施 ■ 「スポーツ・フォー・トゥモロー」等、スポーツを通じた国際貢献の推進等 ■ 身近な場所でのスポーツ実施を促進するため、様々な資源を最大限活用して「スポーツフィールド」を創出 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「若手アスリート参画プロジェクト」などスポーツの力による復興・地域活性化の推進 ■ アスリートの競技力向上と健康維持を支える環境整備（女性アスリートの課題へも対応） ■ 次世代アスリート育成する好循環「アスリートサイクル」を推進 ■ アスリートの経験を活かした商品開発等の推進 ■ アスリートのキャリアやネットワークを活用した地域スポーツの推進 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ パラリンピック競技や障がい者スポーツの魅力を多角的に発信、体験機会の提供など ■ 障がい者スポーツ支援に取組む企業と団体のマッチングの仕組みづくり ■ 特別支援学校等を、地域の障がい者スポーツの拠点の一つとして活用 ■ 心のバリアフリーの理解・定着促進 ■ 障がい者のスポーツ参加を促進するための好事例の発信 等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

②街づくり・持続可能性

<街づくり・持続可能性委員会、小宮山宏委員長>

基本的な考え方

- 東京2020大会を訪れる様々な人にとって、使いやすく分かりやすい社会インフラを構築し、世界へ発信
- 東京2020大会を契機として、世界の人々と持続可能な社会のビジョンを共有

残すべきレガシー

街づくり

ユニバーサル社会の実現
(誰にとってもアクセシブルな公共空間の実現)

魅力的で創造性を育む都市空間
(快適で魅力的な空間の充実)

都市の賢いマネジメント
(ICT技術などを活用した効率化)

安心・安全な都市の実現
(東京2020大会時の安全確保計画の確立)

持続可能性

持続可能な低炭素都市の実現

持続可能な資源利用の実現

水・緑・生物多様性に配慮した快適な都市環境の実現

人権・労働慣行等に配慮した事業活動の定着

持続可能な社会に向けた参加・協働

様々なアクションに取り組む姿を世界へアピール

街づくりにおけるアクション例

- アクセシビリティ・ガイドラインの策定と活用
- 多言語対応の強化
- 船着場の整備による舟運の活性化と、水辺空間のにぎわいの創出
- 新規恒久施設の着実な整備と有効活用
- ICT基盤の充実（公衆無線LAN環境の整備促進等）
- 社会全体のICT化
- 安全・安心を担う危機管理体制の構築 等

持続可能性におけるアクション例

- 太陽光発電や地中熱利用ヒートポンプなど、大会施設等で再生可能エネルギー、省エネルギー技術の積極的な導入
- 競技会場における再生材の活用
- 水素供給システムの整備など選手村を水素社会の実現に向けたモデルに
- 都市鉱山の活用検討
- 遮熱性舗装等の整備やクールスポットの創出など、大会における暑さ対策の推進
- 在来種等の生態系に配慮した植栽を推進する等、様々な主体と連携して緑を量的・質的に充実
- 「持続可能性に配慮した調達コード」の策定・運用
- 環境に対する意識や取組の向上 等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

基本的な考え方

■文化・教育の各種取組を通じて、より多くの人々を東京2020大会に巻き込み、大会成功の機運を醸成

残すべきレガシー

文化		教育	
日本文化の再認識と 継承・発展	次世代育成と 新たな文化芸術の創造	オリンピック・パラリン ピックやスポーツの価値 の理解	多様性に関する理解 (障がい者への理解・ 国際理解)
日本文化の世界への 発信と国際交流	全国でのあらゆる人の 参加・交流と地域の活性化	主体的・積極的な参画と大学連携 (将来の国際社会や地域社会での活動に、 主体的、積極的に参加できる人材の育成)	

文化の祭典としてあらゆる人々が参加する東京2020大会文化プログラム（仮称）を展開
 多様な教育メニュー全体をパッケージ化した教育プログラム（愛称：ようい、ドン！）を展開

文化におけるアクション例	教育におけるアクション例
<ul style="list-style-type: none"> ■ 伝統芸能と最先端技術やポップカルチャーを融合させた新たな芸術表現の創造 ■ 小・中学校における伝統文化・伝統芸能鑑賞体験授業の充実 ■ 学生、若手クリエイターを対象として公募による新たな発想を取り入れたプログラムの展開 ■ 国内外のアーティストを受け入れるアーティスト・イン・レジデンス事業 ■ アール・ブリュットの普及推進 ■ 文化芸術の力を活用して「街づくり」や「福祉」「教育」等の課題解決型事業の展開 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ オリンピック・パラリンピック教育を積極的に進めていく学校の指定 ■ オリンピアン・パラリンピアン・外国人アスリート等の学校への派遣 ■ 企業や団体等の提供する教育メニューの教育活動への活用 ■ 障がい者スポーツの観戦・体験等の機会の拡充や、特別支援学校の児童・生徒と小・中・高校生との交流を充実 ■ 1校1国運動のような学校単位での国際交流 ■ 大会運営ボランティアや大会に関連する活動への参画 ■ 大学連携の枠組みを通じた取組の推進 等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

基本的な考え方

■ 東京2020大会は、日本経済の力強さや最先端テクノロジーを世界にアピールする絶好の機会

残すべきレガシー

経済

高性能経済

(日本の高い技術力や高品質な製品を世界に発信)

底力の発揮

(日本の各地がもつ潜在的な魅力を引き出し、アピール)

高齢化先進国への挑戦

(豊かな高齢化社会実現への取組を世界に示す)

テクノロジー

感動の共有

(大会の臨場感を最先端の技術等を駆使し、世界に伝える)

For All

(全ての人に優しいバリアフリー社会を目指す)

高信頼・高品質の安全

(官民一体となった安全・安心を担う危機管理体制を構築)

水素社会の構築

(世界に日本の誇れる環境対応技術をアピール)

ジャパブランドをアピールするキャンペーンの展開を検討

経済におけるアクション例

- 大会開催時を見本市とし、先端的商品・サービスに統一ブランドのマークを付けて紹介
- 大会を契機に生み出される様々なビジネス情報を全国の中小企業に提供するポータルサイトの構築
- 音声認識・多言語対応ロボットによる接客対応の普及拡大
- グローバル社会に対応した生活・滞在環境の整備
- 柔軟な決済プラットフォームを通じた「スマートな手続」の実現
- ローカル・クールジャパン見本市(仮称)を開催
- 世界規模のビジネスマッチングの「グローバル・ベンチャーサミット(仮称)」を開催
- ウェアラブル機器やAI等を活用した先進医療サービスの実施 等

テクノロジーにおけるアクション例

- 4K8Kなどの最先端の映像伝達技術の活用
- 多言語翻訳などの言葉の壁をなくす技術の開発・推進
- 歩行者支援ロボットや見守りロボット、アシストスーツ等を活用した障がい者・高齢者の生活支援の実証
- ICTを活用したスポーツ情報データ(ODF等)の充実・提供
- 街なかのバリアフリーマップによる分かりやすい案内情報の提供
- セキュリティカメラ/緊急時用のサイネージの整備
- 大会と連携した、燃料電池自動車や定置用燃料電池、水素ステーションの普及 等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

⑤ 復興・オールジャパン・世界への発信

<メディア委員会、日枝久委員長>

基本的な考え方

- 東京2020大会を日本中のできるだけ多くの人々の参画により盛り上げ、また、世界中から注目が集まる機会として、東北の復興した姿や日本の文化・伝統、経済・テクノロジーなどを世界へ発信

残すべきレガシー

復興

- ・被災地でのスポーツ実施率の向上や子供たちの体力向上を目指すとともに、将来的なオリンピック・パラリンピアン輩出を企図
- ・復興の姿を継続的に世界へ発信し、大震災の記憶の風化防止を図るとともに、風評被害を払拭

観光

- ・2020年を節目に、外国人旅行者が快適に滞在できる環境整備を推進し、外国人旅行者の増大をもたらす
- ・各地の観光産業活性化により、地域による外国人旅行者の受入が促進されることにより交流が生まれ、地域の人々の財産となる

オールジャパン

- ・多くの人々が、大会関連イベントやボランティアなどに自ら参画し、大会の感動と記憶を後世に伝承
- ・大会のポジティブな影響を日本の隅々まで波及させ、地域の一体感の醸成、地域経済、コミュニティの活性化を企図

世界への発信

- ・文化・伝統、経済・テクノロジーなどの魅力を世界へ発信し、世界各国における日本に対する理解者をさらに増やす
- ・オリンピック・パラリンピック精神の普及を通じ、平和に関し世界に訴求し、世界平和に貢献する

復興・オールジャパン・世界への発信を展開するアクションの検討

復興におけるアクション例

- 東京2020大会における「子どもレポーター」の実施
- リオでのハンドオーバー、ライブサイトやフラッグツアーの実施、復興へ歩む被災地の姿を継続的に映像に記録し、世界へ発信
- ジュニアアスリート等の発掘や育成支援 等

観光におけるアクション例

- 2019年ラグビーワールドカップ、2021年関西ワールドマスターズゲームズとの連携による訪日リピーター獲得
- 「& TOKYO」を活用した東京をPRする様々なプロモーション
- 広域観光周遊ルートの形成を促進し、海外へ積極的に発信 等

オールジャパンにおけるアクション例

- 東京2020大会公式ソングやオリ・パラ音頭（仮称）、ダンス等の創作
- 障がいのある人もない人もボランティアに参加しやすい環境づくり
- ホストタウン事業による日本の各地域の活性化 等

世界へ発信におけるアクション例

- 2018年平昌、2022年北京と2020年東京との組織委員会等の連携
- リオ大会「東京2020ジャパンハウス」での日本の魅力などの発信
- オリンピック休戦プログラムの実施 等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む

今後のスケジュールについて

		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021		
フェーズ		基礎フェーズ	計画立案フェーズ（リオ大会前）		計画立案フェーズ（リオ大会後）			実践準備	大会運営	解散・レガシー	
主な行事		ソチ大会 ●組織委員会設立	リオ大会 ●公益財団法人化		平昌大会			テストイベント → 東京大会	●法人清算		
大会計画・準備		IOC/IPCとの調整委員会・プロジェクトレビュー・各種ミーティング									
		大会開催基本計画	クライアント、ファンクション、会場運営に関する個別計画策定→リオ大会で学んだことを反映し、個別計画改善					実践力強化			
		関係者との連携・準備（競技、放送サービス、エネルギー、セキュリティ、パラリンピックインテグレーション、持続可能性、ブランド保護 等）									
		大会気運の醸成、大会成功に向けた国内外のエンゲージメント									
開会式、聖火リレー等					●リオ大会引継ぎ式			●聖火リレールート発表	聖火リレー	●開会式	
大会ブランド、チケット販売					●大会エンブレム発表			●大会マスコット発表			●チケット販売開始
大会ボランティア								募集プロセス発表・採用手続き・研修			
大学・短期大学との連携		大学連携フォーラムの実施、各種連携活動の推進(オリンピック・パラリンピック教育、グローバル人材育成 等)									
NOC/NPC 事前キャンプ		候補地ガイド掲載情報募集			候補地ガイド公表・随時更新						
		(随時、各自治体にて直接交渉・合意・締結)									
被災地及び全国自治体との連携		復興支援(各事業の実施に向け復興支援連絡協議会で調整)、全国自治体と調整(教育・文化プログラム、産品紹介 等)									
会場整備		会場の配置確定、基本計画、設計、工事、既存施設の改修									
アクション & レガシープラン	スポーツ・健康 街づくり・持続可能性 文化・教育 経済・テクノロジー 復興・オールジャパン 世界への発信	アクション&レガシープラン策定			各年度ごとにプラン更新 各種アクションの実施						
		オリムピック・パラリンピック大会運営									
		公式報告(報告書・映像)									
		大会後もレガシーを継承									
		レガシーレポート									

※上記は、平成27年東京2020大会開催基本計画に基づくスケジュールとなります。

- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会のホームページ上に、アクション&レガシープラン 中間報告を公開

<https://tokyo2020.jp/jp/news/index.php?mode=page&id=1616>

- 後日、同ホームページにて意見募集を行う予定